



農地再生レポート通信



発行：福島県耕作放棄地対策協議会 編集：福島県農村振興課 TEL 024-521-7380 FAX 024-521-7545 E-mail:nosonshinko@pref.fukushima.jp



今季のさわやかリフレッシュ



～^{ほばた}母畑地区要活用農地推進利活用プロジェクトチーム（母畑PT）の取り組み～

『ふくしまの大地をたがやせ！ in いしかわ』が開催されました!!



再生機械の見学会の様子

『ふくしまの大地をたがやせ！ in いしかわ』

11月20日(土)、石川町曲木地内において、石川町耕作放棄地対策協議会主催による『ふくしまの大地をたがやせ！ in いしかわ』が開催されました。

このイベントは、石川町内の耕作放棄地解消に向けた普及啓発活動の一環として行ったもので、地域住民へオープンにした中での耕作放棄地(45a)の再生作業と、**㈱サキ東北**の協力による耕作放棄地再生機械の見学会が行われ、大勢の見学者に会場いただきました。

再生作業では、11月7日に結成した耕作放棄地を再生させるボランティア団体『**ふくしま・たがやし隊**』の隊員10名も参加し、草刈り、抜根等の作業を精力的に行い、このイベントを盛り上げてくれました。

^{ほばた}母畑PTとは？

母畑PT(国・県・関係町村・土地改良区・JA等が構成員)は、国営農地開発事業母畑地区で造成した畑地の有効利用を目的に、これまで様々な活動を展開しています。

今後は、石川町耕作放棄地対策協議会と連携し、今回再生した農地で**イチジク栽培の実証**を行うとともに、イチジクの加工品開発・試験販売等を予定しており、当地域におけるイチジク営農の普及・拡大の活動を通じて、当地域における新たな営農モデルの構築を目指していきます。



たがやし隊による再生作業の様子



作業が進み、甦る農地

再生作業検討の際は、同隊を活用してはいかがでしょうか

むらからまちから

福島市耕作放棄地対策協議会

の取り組みを紹介いたします。

協議会の設立経緯

福島市の農業振興を図るうえで、農業生産の基盤である農地の確保及びその有効利用を図っていくことは重要な課題であり、年々増加傾向にある耕作放棄地の拡大防止と解消を進めることは、急務となっています。これらを踏まえ、耕作放棄地を再生・利用する施策を推進するため、「福島市耕作放棄地対策協議会」を設立しました。

今年度の取り組み状況

耕作放棄地再生利用緊急対策の交付金を活用し、福島市松川町水原地区の農業後継者や新規就農者などが中心となり設立した任意組織による直営施工で耕作放棄地約32aの再生に取り組みます。

特徴的な取り組み

同交付金の支援メニューの1つである「経営展開」を活用し、新たな地域ブランドの確立を目指し、ナツハゼの実を使った加工品の試作を実施する予定であり、農業・農村の6次産業化による地域活性化に取り組みます。

次年度以降の抱負・活動展開予定

地域ぐるみで取り組む活動をはじめ、耕作放棄地の解消に向けた事業の展開に努めていきます。



再生前



再生中



再生後(ナツハゼ植栽)



白河市表郷地区で耕作放棄地再生モデル事業に取り組む、



たきた (株)JAファームサポートの滝田社長

(株)JAファームサポート会長
滝田 国男氏

にインタビューしました!!



再生事業に取り組む理由についてお聞かせください。

A

平成 21 年度に会社を設立しましたが耕作する農地を借りることが困難だったので、耕作放棄地であればまとまった面積を借りることが可能と考えました。

このような時期に耕作放棄地再生モデル事業を知り、この事業を活用することにしました。農村の景観を阻害する耕作放棄地の解消は、まず市町村ベースで解決しなくてはいけないと捉え、それならまず会社が実証してみようと思い取り組みました。



耕作放棄地解消の取組みについてお聞かせください。

A

平成 21 年度に耕作放棄地 143a の再生を行い、主な作付作物は春ブロッコリーを 40a、後作に秋そば、トウモロコシを 20a 作付け、後作に白菜を作付けしました。平成 22 年度は、52a の再生に取り組んでおり、トウモロコシ、ブロッコリー（後作で落花生）、パプリカを作付けする予定です。販売先は JA 及び契約による直販です。



今後の耕作放棄地活用の展開についてお聞かせください。

A

耕作放棄地を再生し、当地域で作付されていない新しい農作物を作付する実証ほとし、農家に対し栽培に関する情報提供を行えるようにしたいと考えております。また、農業を志す若者の農業体験の場とする考えです。

次の段階として市民農園(クラインガルテン)を開設し、農村地域に都市部の人を呼び込みたいと考えております。頻繁に市民農園に来ることができない会員の区画には、会社で栽培管理業務を引き受けて、会員には種まきや、草とり、収穫するという農作物を育て味わう楽しみを知ってもらいたいと考えています。



羅針盤

～福島県・県協議会からのお知らせ欄～



～福島県からのお知らせ～

耕作放棄地の再生利用活動や保全管理を支援するボランティア団体「ふくしま・たがやし隊」では、各市町村を通じて支援要請を受け付けています。詳しくは、県農村振興課（電話：024-521-7415）までお問い合わせください。

平成 23 年 1 月 21 日（金）に、福島市の JA 新ふくしま北信支店において、「県北地域耕作放棄地対策セミナー」が開催されます。県北地域以外からの参加も可能です。参加を希望される方は、1 月 12 日（水）までに、県北農林事務所農業振興普及部（電話：024-521-7662）へお申し込みください。



～県協議会からのお知らせ～

12 月現在で、国の「耕作放棄地再生利用交付金」を活用した実証ほを設置している協議会は、9 地域協議会（H21 年度からの継続を含む）にとどまっています。各地域での耕作放棄地解消の足掛かりとして、実証ほの積極的な活用をご検討ください。

編集後記

日ごろより耕作放棄地の解消及び通信への情報提供等にご尽力頂き、厚くお礼申し上げます。今年最後の発刊となりました。来年からも皆様の取組に活用できるような通信にしていきますので、御協力をお願いいたします。良いお年をお過ごしください。

今後「農地再生レインボー通信」の配信を希望される方は、nosonshinko@pref.fukushima.jp までご連絡ください。